

平成 24 年度 今治市次世代育成支援対策地域協議会 会議録

平成 24 年 11 月 15 日（木） 15 : 00~16 : 30  
今治市総合福祉センター 4 階 多目的ホール 1

平成 24 年度 今治市次世代育成支援対策地域協議会 会議録（概要）

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 15 日（木） 15：00～16：30
- 2 会 場 今治市総合福祉センター 4 階 多目的ホール 1
- 3 議 題 (1)今治市次世代育成支援地域行動計画の進捗状況について  
(2)その他
- 4 出席者 【委 員】 14 名  
泉浩徳委員、松井光委員、御堂和貴委員、武本勇生委員、土井圭子委員  
森一男委員、矢野学委員、清水正恵委員、村上正親委員、南條高輝委員  
河北万里委員、梶原淳一委員、渡邊美幸委員、青野いづみ委員  
【事務局】 10 名  
健康推進課長補佐、保育課長、学校教育課主幹、子育て支援課長  
子育て支援課長補佐兼こども家庭相談室長、子育て支援課こども福祉係長  
子育て支援課こども健全育成係長、子育て支援課子育て支援係長  
子育て支援課子育て支援係主査、子育て支援課子育て支援係主事
- 5 欠席者 【委 員】 2 名  
三宅育子委員、高須泰裕委員、村上由耕委員  
【事務局】 1 名  
健康福祉部長

6 会議内容

事務局	当協議会の開会
市長	(市長挨拶)
事務局	各委員、事務局の紹介 (自己紹介)
事務局	協議会会長の互選を各委員に諮る。
御堂委員	学識経験者の泉委員を推薦 (他の委員の賛同を得て、会長に泉浩徳委員を決定)
会長	(会長挨拶)
事務局	会議録署名委員、職務代理者の指名を会長に依頼

会長	会議録署名委員に御堂和貴委員、職務代理者に松井光委員を指名
会長	会長が議長となり、今治市次世代育成支援地域行動計画（後期計画）の特定事業のサービス目標量、及び計画に掲げている目標量を数値化した事業、計画策定後の新規事業の進捗状況について説明を求める。
事務局	（進捗状況について数値などを説明）
会長	各委員に質問、意見などを求める。
武本委員	「延長保育事業」「夜間保育事業」「トワイライトステイ事業」「ショートステイ事業」等の具体的な内容の説明を求める。
事務局	通常保育は一般的な保育である。延長保育は夕方遅くまで仕事をしてる方に対するサービスである。夜間保育は 21 時、22 時までの預かりサービスのことで、今治市では実施していない。トワイライトステイ事業は夕方の一時的預かり事業であり、今治市では実施していない。休日保育は日曜、祝日の預かりで、現在 1 か所で実施している。家庭的保育（保育ママ）は待機児童が多い自治体で実施されており、保育経験豊富な方が家庭的な中で子どもを預かる事業である。今治市では実施していない。
武本委員	レスパイトサービス事業について説明を求める。
事務局	在宅の障害者の介護者が、病気とか冠婚葬祭などにより介護が困難になった場合、一時的に障害者の方を預かる事業である。
土井委員	放課後児童クラブと放課後子ども教室の相違点について説明を求める。
事務局	放課後児童クラブは学校の空き教室などで放課後の児童の生活の場を提供する事業であり、保護者が就労している児童が対象となる。放課後子ども教室は保護者の就労状況にかかわらず参加可能で、地域の方々の参画のもと、学習やスポーツ、文化活動、住民の方との交流を実施している。

会長	国が出している子ども・子育て関連 3 法案の中で、市町村の責任などは今後どのように変わっていくのか。
事務局	基本的には施設型給付も地域型給付も、市町村の責任において実施することになっている。認定こども園、幼稚園、保育所の設置認可は都道府県になり、運営責任は市町村になると想定される。
河北委員	レスパイトサービス事業は夜間も可能か。
事務局	現在 2 か所で実施しているが、宿泊はない。
松井委員	通常保育事業について、平成 26 年度の目標数値が増加しているが、少子化のことは数字の中に加味されているのか。
事務局	アンケート調査をベースに数値化した。働く意欲のある方、社会進出を望む方が多く、保育に欠ける子どもの数は少子化でありながら増加すると推計された。
会長	女性の社会進出とも関わるが家庭での養育との関係など、子ども・子育てについて質問、意見などを各委員に求める。
土井委員	0～1 歳の保育を希望する保護者が多い。保護者の就労形態も多様化している。幼稚園ではどういう状況か。
森委員	幼稚園の入園は満 3 歳からであるが、保護者の都合で朝 8 時から夕方 6 時までの預かり保育をしている所がほとんどである。また、自分たちが外出するときだけ預かってほしいという保護者もいる。
会長	子育て中の親として、家庭での養育についてどのように考えているか。
青野委員	子どもと関わる時間を十分に持つため現在は仕事に就いていないが、経済的には仕事を探す必要もあり、複雑である。
会長	仕事と育児の両立ということで様々なサービスが展開されているが、うまく出来ていない現状があると思う。どのように思うか。

村上委員	<p>青少年の健全育成活動に携わっているが、現在の親は仕事で忙しく、なかなか活動に協力してもらえない。以前よく言われた「鍵っ子」が多い実感がある。また、先ほどの意見にもあったように、昔とは違い0～1歳での保育が当たり前となっており、保育に真剣に取り組まなければならないとも思う。</p>
会長	<p>子どもを養護する立場からどのように考えているか。</p>
梶原委員	<p>国での虐待事例の検証結果を見ると、虐待家庭が地域で孤立化、密室化している実態がある。子どものために様々なサービスを提供しながら、いかに養護の必要な子どもを発見するかが重要であり、この点で保育や幼児教育の現場の果たす役割は非常に大きいと思う。</p>
会長	<p>障害を持つ子どもを支援する立場からどのように考えているか。</p>
河北委員	<p>資料を見ていると障害を持つ子どもに対するサービスは別枠となっているが、コミュニケーションの取れる子どもであれば、一般のサービスを普通に利用することは可能かどうか教えてほしい。</p>
事務局	<p>保育所での事例など、可能な限り分け隔てなくサービスを利用できるように努めている。</p>
会長	<p>先ほどの話とも関わるが、児童虐待防止の観点からどのように考えているか。</p>
梶原委員	<p>地域の学校と福祉の連携が非常に大切であると思う。また、子どもの養護という観点から、幼児の受け入れ先を充実させる必要があると感じている。</p>
会長	<p>福祉（施設）、教育（学校）、行政の地域連携の取り組みについてどのような状況か。</p>
武本委員	<p>桜井地区（中学校区）では、地域の小学校、幼稚園、保育所、行政（市）が連携し情報交換を行う取り組み（フォーリンク）が数年前から行われており、非常に役立っている。</p>

会長	このような取り組みは、桜井地区だけのものか。
事務局	桜井地区をモデルとして立ち上げ、現在は他に清水地区、日高地区でも実施している。順次、拡大していきたいと考えている。
会長	地域の自治会の立場からどのように考えているか。
矢野委員	ここまでの議論では、子どもを保育所などに預けることが子育てであるという印象を受けるが、本当の子育ては家庭にあるべきだと思う。自治会としては餅つき大会などの地域行事をとおして、子どもの情操の向上に役立ちたいと思う。
会長	家庭で子どもを育てることが基本かと思うが、経済状況、社会状況がそれを許さない部分もあり、難しいところがある。
矢野委員	経済状況ということ突き詰めれば、今日の主題である子ども・子育てサービスの充実は不可能ではないのかとさえ思う。
会長	出来ることから少しずつやること、出来ることを繋げていくこと（スモールステップ）が、子ども・子育てにおいては基本だと思う。 PTAの立場からどのように考えているか。
南條委員	小中学校と比較して、保育所などの防災危機管理への取り組みはどのようになっているのか教えて欲しい。
事務局	先般の東日本大震災を受けて、保育所では統一の防災マニュアルを作成したり、地震対策訓練を実施するなど、可能なところから取り組んでいる。
会長	ファミリー・サポート・センターの立場からどのように考えているか。
渡邊委員	ひとり親家庭の子どもなどいろいろな境遇の子どもと接するが、子どもを預かる際は愛情をもって接することが大切であると思う。
会長	幼い頃の愛情が自己肯定感を得るために非常に大切であると言われており、大切にすべき視点であると思う。

会長	今治市次世代育成支援地域行動計画（後期計画）の進捗状況に関わる こと以外での質問、意見などを各委員に求める。 (各委員からの発言なし)
会長	当協議会の閉会

会議の経過を記載し、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

会長 \_\_\_\_\_

署名委員 \_\_\_\_\_